

怖いのは暴風よりも降雨

滋賀県は、26日に災害救助法を発令し、救助活動を開始しました。安曇川堤防復旧工事には米軍隊員28人が二交代で昼夜兼行の突貫作業を続け、作業開始から約20日間で全作業を終えました。

被災から一か月、決壊口は米軍の協力で一応復旧しましたが、水田は小石で埋まり一面泥沼、安曇川決壊口付近の水田は、高さ数メートルにわたって覆った瓦礫が乾ききり、見渡す限り真っ白く続く様子は、これが水田だったのかと疑うばかりの光景でした。



過去の災害を教訓に 常に災害への心構えを

この水害以降、安曇川では昭和32年から平成10年までの間、河口から延べにして6・7kmにわたり河川改修が行われてきました。

この河川改修は、過去の降雨データなどから30年に1度の確率で降るとされる、2日間の総雨量360mmの雨に耐えられるよう設計されています。

また、現在、水防活動の目安となる水位「氾濫注意（警戒）水位」を朽木市場の舟橋で1・7m、安曇川町常磐木の常安橋で1・5mと定めています。この水位をこえると、市は状況を総合的に判断したうえで、防災行政無線等により避難準備情報を発表します。

このような避難に関する情報には特に注意をし、すみやかに行動できるように準備をしておきましょう。

近年では、前線の停

安曇川での主な水位上昇記録

昭和28年	9月25日 (台風13号)	葛川村（現大津市）の観測所で危険水位1.5mが4.0mに、決壊氾濫か所の青柳村二ツ矢で1.0m、本庄村川島で3.0mを記録。
昭和30年	2月27日～28日 (融雪洪水・低気圧)	27日低気圧で風雨が強まり、山間部の雪解けにより28日安曇川が一気に増水。西万木で床上浸水50戸、床下浸水20戸など。
昭和33年	7月25日～27日 (梅雨前線豪雨)	24日から26日にかけての大雨で安曇川水系では各警戒水位を突破する程度の出水があり、護岸が決壊。
昭和36年	10月26日～28日 (低気圧)	27日明け方に安曇川上・中流域で強い雨が降り、28日まで続く。各河川で増水し堤防決壊等の被害がでた。
昭和46年	7月22日～27日 (梅雨前線豪雨)	21日から26日までの総雨量は151mmで、安曇川大橋で警戒水位の1.5mまで上がる。主な被害は、床下浸水5戸。
	8月30日～31日 (台風23号)	29日から31日までの総雨量は219mmで、常磐木の常安橋では警戒水位（1.5m）を上回る2.1mを記録。
昭和47年	9月16日～17日 (台風20号)	16日から17日にかけて、常磐木の常安橋で警戒水位（1.5m）を上回り、2.4m～2.5mを記録。三矢、下小川地区35世帯が避難。

滞などで局地的な集中豪雨が多発しており、河川でなくても水害が発生しています。

過去の災害を忘れることなく、日頃から災害に対する危機意識を持ち、万全の備えをしておくことが大切です。

避難に関する情報とは

高島市では、避難に関する情報を、防災無線やメール配信サービス（リアルタイム高島）、また場所によっては、テレビやラジオなどで皆さんにお伝えします。

◆避難準備情報

「避難勧告」より前の段階で「人的被害の発生の可能性がある」と判断された時点で発令され、避難に時間を有するお年寄りや体の不自由な方などにいち早く安全な場所に避難してもらうための情報です。また、その他の人には、避難準備を求めるものです。



◆避難勧告

建物などへの被害が発生するおそれがあり、明らかに人的被害の発生する危険性が高まった状況と判断される場合に発令されるもので、人々に避難を促す情報です。

この情報が出されたら、避難所への移動を開始してください。

◆避難指示

勧告よりさらに状況が悪化し、災害の前兆現象の発生や危険が切迫した状況において発令されるもので、避難勧告よりもさらに拘束力が強くなります。危険が差し迫っているため、ただちに安全な避難場所へ移動することが大切です。

場合によっては、命を守る最低限の行動が必要です。これらの他に、自らが状況の変化に注意し、危険を感じた場合は、情報が無くても自主的に避難することが必要です。

ネット上で情報共有

ICTを活用した草の根メディア『地域SNS』を始めます

最近、「ICT」（情報通信技術）による意思伝達手段のひとつとして、登録メンバーの顔が見えるインターネット上の交流の場「SNS」（ソーシャル・ネットワーク・サービス）が注目されています。いま、このSNSを地域レベルで活用することによって、地域社会への住民参加を促進し、地域コミュニティの活性化を図っていくという「地域SNS」の取り組みが全国各地で始まっています。高島市も、市民の意見を行政に反映させたり、安全・安心な街づくりに役立てるため、11月からこの「地域SNS」に取り組みます。

新たな地域活性化ツール

《SNSとは》

SNSとは、日記や掲示板、メール配信などの機能を使って、インターネット上でコミュニケーションや情報共有を「安心」して行うことができる、「ミニコミュニティ型」のウェブサービスです。

広く情報を公開する一般的なウェブサービスとは異なり、「すでに登録している人の招待がないと参加できない」というシステムになっているサービスが多く、日本では2004年3月にサービスを開始した「mixi（ミクシー）」が有名で、多くの利用者を得ています。

いつでも、どこでも、安心、つながる、広がる

《地域SNSの特徴》

- ・ 時間や場所にとらわれない情報交換（いつでも、どこでも）
- ・ 招待制、後見人制、非匿名性による顔の見えるコミュニケーション。場面によっては、公開・非公開の範囲を限定（安心）
- ・ 関心のある事柄について「ミニコミュニティ」を形成、新たなつながりを創出（つながる、広がる）

お家に居ながら井戸端会議

災害時の連絡手段にも活用

《地域SNSに期待する点》

- ・ イベント開催情報や子育ての疑問など、あらゆる情報を市が一方的に発信するのではなく、市民からも情報発信できます。
- ・ 市民同士の情報交換に役立ちます。
- ・ 地域に密着した情報を効率よく収集できます。



高島版SNSでは、全国を網羅する「mixi」などは違う、地域版であるからこそその魅力を生み出したいと考えています。地域の楽しい店舗コミュニティ、子育て

《研究会委員を公募します》

地域SNSを構築するにあたり、市民や学識経験者から広く意見を聴き、システム内容に反映していくため、「高島市地域SNS研究会」を設置します。

この研究会にご参加いただける委員を公募します。

- ▼ 募集人数 3人程度
- ▼ 応募資格
 - ・ 高島市に住所を有する満18歳以上の方
 - ・ 市議会議員または市職員でない方

※応募方法など詳細は、市のホームページをご覧ください。情報統計課にお問い合わせください。

てサークルや育児についての情報、いろいろな団体の活動情報など、細やかな情報を発信・交換することや、災害時には被災状況の迅速な収集や安否情報の「ミニコミュニティ」など、高島市版SNSが「草の根メディア」として市民に愛されることを目指しています。

情報統計課

TEL (056) 85227
FAX (056) 81556